

# 富山経済同友会

会報

2026.3月  
No. 329



第3回企業経営委員会（同友会経営道場）（2月5日）

## CONTENTS

- 新年幹事会 ..... 2
- 経済5団体「新春互礼会」..... 3
- 【講演録】12月会員定例会：安宅 和人 氏 ... 4
- 第2回代表幹事イニシアティブ委員会 ..... 9
- 第4回総務企画委員会・第2回委員長連絡会議... 10
- 第2回人財育成・活躍委員会 ..... 10
- 第3回企業経営委員会（同友会経営道場）... 11
- 第3回デジタル推進委員会 ..... 12
- 第5回交流委員会 ..... 13
- 課外授業講師派遣 ..... 13
- リレーエッセイ<sup>⑬</sup>（藤谷 弦一郎 氏） ..... 14
- 会員の入退会 ..... 15
- 活動報告 ..... 17
- 今後の予定 ..... 19
- わが青春の1枚（井上 敏夫 氏）..... 20

# 切磋琢磨し地域に貢献

## — 新年幹事会 —

1月14日(水)、富山電気ビルディングにおいて新年幹事会を開催し、75名が新年の門出を祝った。はじめに、幹事会で会員の入退会を決議し、事務局から活動報告と今後の予定について報告。

4月に高知で開催される全国経済同友会セミナーへの参加を呼び掛けた。

その後、新田八朗富山県知事を迎えて昼食会を開催。麦野代表幹事、牧田代表幹事より



新田知事

年頭所感が述べられ、その後新田知事から来賓のご挨拶をいただいた。

久和特別顧問が乾杯の音頭をとり、歓談。最後に桶屋副代表幹事が挨拶し、閉会した。



久和特別顧問



桶屋副代表幹事

### ◆足元を見て自ら考えて行動を

#### 麦野代表幹事



我々を取り巻く環境は緩やかに回復局面にありながら、一方で様々な課題が出てきています。従来からの人口減少や人手不足の常態化、物価上昇、海外情勢の不安定化といった、構造的な課題と短期的な変動要因が複雑的に絡み合っています。今年の景気見通しは、一般的には個人消費と設備投資がプラスの要因に働くとされていますが、米国や中国経済低迷の影響により、昨年を上回る成長は難しいというのが大方の見方でありませぬ。確実に言えることは、地政学的リスクや通商リスク、気候変動リスクが高まり、VUCA時代にまた深く入っていくということです。

このような状況下で我々経営者はどうすべきか。楽観でも悲観でもなく、こういう時こそ足元をしっかり見て自分で考えて判断し、行動することが大事です。昨年、「働いて働いて働いて働いて働いてまいります」が流行語大賞に選

ばれました。その意味は長時間労働を推奨する趣旨ではなく、リーダーが新しい価値を見出す時には知恵を絞り、データとファクトに基づいて冷静に見極め、ロジックに従って判断し、行動し続ける覚悟を持つということだと理解しています。

今年のテーマは「自立・融合・共有」と捉えています。自立するためには企業の稼ぐ力を高め、足腰の強い経済を磨かなければいけません。そのためには、AIやデジタル技術を最大限駆使して、現場の生産性を高めることがまず必要です。そうすることで、例えばスタートアップ企業のアイデアと地場産業の伝統技術との融合など、次世代につながる新しい産業が生まれるのではないのでしょうか。結果、その企業で働く意味や富山で暮らす誇りを、世代を超えて共有できる、そんな故郷にしたいと思っています。

我々富山経済同友会は自由な立場で、富山のみならず我が国経済の発展に積極的に参画し貢献するという志で活動しています。会員相互が切磋琢磨し連携しながら地域のために行動できるよう、今年も同友会活動への積極的な参加をお願い申し上げます。

## ◆「同友会らしさ」の追求

### 牧田代表幹事



年末懇親会の挨拶で、栗山秀樹さんと共に講演をするという話をしました。その時に、AIを使って“リーダー”や“リーダーシップ”という言葉を検索していたところ、「田中角栄」というワードが飛び込んできました。掘り下げてみると、田中氏を題材とした漫画が出版されていることを知り、読んでみると大変面白いものでした。大人買いして年末に読破しましたが、それに飽き足らず、田中氏について石原慎太郎さんが著された「天才」も読みました。すごいと感じた点は、50年以上前、内閣総理大臣を務められていた時に、すでに東京一極集中に警鐘を鳴らしていたということです。50年前に氏がいくつか予測してい

たことが、今まさに現実のものとなっています。情と理を持ち合わせた氏が存命であれば、もしかすると日本は違っていただのかもしれないと思った次第です。

人口減少をはじめ、困難な場面が訪れると予測される中で、田中氏に触発されたわけではありませんが、年頭に富山経済同友会という組織はどのような方向に向かっていくのか、また、代表幹事としてどういった役割を担うべきなのか、ということについて考えました。結論から申し上げますと、「同友会らしさ」を追求することが大事だろうと思っています。同友会は商工会議所や経済連合会とは異なる成り立ちでできた団体です。経営者や経営層の個人が集まって活動し、誰もが自由に意見を交わすことができる場です。お世話役の幹事団の代表として、活動を下支えし会員の皆様が充実した、そしてわくわくする経済同友会となるよう、微力ながら精一杯、今年も皆様とともに進んでいきたいと思っております。

# 経済5団体が地域経済の発展を誓う

## — 令和8年「新春互礼会」 —

県内の経済5団体による新春互礼会が1月5日(月)、ANAクラウンプラザホテル富山で開催され、各団体幹部や企業経営者、市町村長ら約400名が出席し、当会からは38名が出席した。

はじめに、麦野代表幹事が、「我々を取り巻く環境は容易ではないが、5団体が、立場や役割の違いを超えて、未来に向かって共通の想いのもと、魅力ある誇れる富山へ一歩一歩前進することを祈念する」と開会を宣言した。



麦野代表幹事

その後、富山県商工会議所連合会の庵栄伸会長が、5団体を代表して開会挨拶し、「賃上げや働き方改革で人を確保し、AI等の設備投資を行い、生産性を向上して欲しい」と呼びかけた。

来賓を代表して新田八朗知事が、「県の中小

企業向けの様々な支援策を積極的に活用し、稼ぐ力の強化につなげて欲しい。経済界とともに力をあわせて明るい富山県をつくる」と祝辞を述べた。

来賓紹介に続き、県商工会連合会の宮本光明会長の音頭で鏡開きが行われ、県中小企業団体中央会の廣瀬宏一会長の発声で乾杯、和やかに歓談が行われ、山下清胤（一社）富山県経営者協会長の閉会挨拶により互礼会は盛会のうちに幕を閉じた。



# 「残すに値する未来を考える」

慶應義塾大学環境情報学部 教授  
LINE ヤフー株式会社 シニアストラテジスト  
一般社団法人残すに値する未来 代表理事 安宅 和人 氏



## 【講師プロフィール】

マッキンゼーにて11年間、多岐にわたる分野で商品・事業開発やブランド再生に携わった後、2008年よりヤフーへ。2012年から10年間 CSO を務め、2022年より Z ホールディングス(現 LINE ヤフー)にてシニアストラテジスト(現兼務)。2016年より慶應義塾 SFC で教え、2018年秋より現職。データサイエンティスト協会 設立理事・スキル定義委員長。経済産業省「新産業構造ビジョン」、内閣府/CSTI「AI 産業化ロードマップ」「大学ファンド構想」、デジタル防災未来構想、数理・データサイエンス・AI 教育モデルカリキュラムおよびプログラム認定制度、知的財産戦略ビジョンの策定など、科学技術およびデータ・AI をめぐる多様な政策形成に関わる。都市集中しかないかのように見える未来に対し、知恵と技術を活かし、自然と人が共存するもう一つの未来の創造を目指して、2017年に構想づくりを始動。以降、専門家・地域実践者とともに課題の構造的な見極めの上、構想を深め、実装に向けた検討、取り組みを重ねている。東京大学大学院 理学系研究科 生物化学専攻修士課程修了。イェール大学 脳神経科学 Ph.D.。著書に『イシューからはじめよ』、『シン・ニホン』、近刊に『「風の谷」という希望』など

## ◆ 「風の谷」的未來づくり

以前に出版した『シン・ニホン』の最終章の扉、本日のタイトルでもある「残すに値する未来」に、敬愛する開高健さんの言葉「明日、世界が減びるとしても、今日、君はリンゴの木を植える」と書きました。どのような未来を残すかが我々に問われており、その一環で「風の谷」という運動論を行っています。このままでは、人が稠密な都市でしか暮らせない未来となってしまいます。

人類は200年前と比べて、日本は約4倍、イギリスは5倍、アメリカは50倍以上にも増えていますが、限界集落は世界的な問題です。原因は都市志向にあります。東京や大阪、名古屋にしろ、現在都市と言われる多くは縄文時代まで海でした。人は本来住んでいなかった場所に移り、歴史ある自然豊かな土地を捨てたのです。そうした疎空間を、テクノロジーの力も使い倒しながら「風の谷」的未來としてつくりたいのです。

## ◆ 対象は地方でなく疎空間

都会と地方の議論としてよく誤解されますが、地方ではなく疎空間です。日本は、人口密度1,000人(/km<sup>2</sup>)以上の土地に人が集中し、国土面積の半分以上は誰もいません。人口密度0~50人の土地(日本の面積の約4分の3を占める)に住むのは人口の1%です。

例えば、国立公園は人が暮らせる空間ではないので、疎空間に当てはまりません。富山市が有名なコンパクトシティ化は、本質的には都市化による問題解決であり、エコビレッジ的なものも、ある種の価値観の集合体で、風の谷とは異なる空間と言えます。また、世界的にスマートシティ実験が行われましたが、基本的には成功していません。文化のない、スマートなだけの空間には魅力が乏しく、人は集まりません。村おこしも、人をかき集めようという都市化の発想です。リゾート化は、根本的に多くが立地的に不適当ですので、これも違います。

「風の谷」憲章の冒頭に、「風の谷」とは「よいコミュニティである以前に、よい場所である」

## KOUENROKU

と記してあります。コミュニティの維持だけなら、移住で済む話です。疎なまま、よい場所として存続可能でないと意味がありません。

## ◆ 疎空間にある課題

## 【エコノミクス】

疎空間は、救急業務での平均搬送時間（人口密度約100人）が30～40分超えの、言わば緊急時は死に近い空間です。また、0～15歳の人口密度は1～3人、1学年0.1～0.2人です。学校は勉強だけでなく社会を学ぶために行く場所とも言えますが、これでは成立しませんし、生徒1人当たりの小学校費も1,000万円を超えることもあるような状態です。

まず、お金の循環が悪過ぎるという問題があります。例えば隠岐諸島の海士町は地域再興で有名ですが、予算は自主財源を7億円（うち税収2億円）として約60億円で組んでいます。当然足りませんので、地方交付税、県・国支出金、加えて町債も充てています。つまり、都市から輸血しないと回らず、それでも足りない分は未来の負債となります。

また、県レベルでは数倍程度のコスト差しかありませんが、インフラを担う基礎自治体単位では、人口密度によって1人100倍を超えるコスト差が生じます。

ロジックはシンプルです。例えば「アルプスの少女ハイジ」のおんじが住むような土地で1kmの農道を引くと、その1軒のために最低5億円要し、採算が合いません。一人当たりのインフラ費用が重すぎるのです。これが疎空間のエコノミクスの背後にある大きな理由の片側です。対して、密空間ではハイスペックなものが引けます。「スケール則」と言われ、大規模な都市ほど効率性がよく、一人あたりの環境負荷も下がります。また、もう一つの理由として密度による生産性の上昇傾向もあります。密度は価値を生みます。実は人口密度が数千にならないと、

社会維持の費用と空間維持負担は合わないのです。

交付税等による補正頼みでは良循環に入りません。日本では社会保障支出が社会保険料収入を大きく（年間60兆円以上）上回り、公費による補填は毎年拡大しています。将来的に都市からの輸血は間違いなく滞るでしょう。

## 【レジリエンス】

能登半島地震の石川県復旧・復興アドバイザーボード委員を務めています。視察しますと、元の水流通を塞いだ道路など、自然に反してインフラを引いたところが崩壊する傾向にあり、間引かれない高密度の杉林も地滑りが多い状況です。

人類は従来、豊かになると長寿化して子どもの数が減少します。一方、世界的な脅威として、温暖化や環境省の予測する風速90メートルの台風などがあります。こうした人口や地球との共存の問題が先鋭的に表れているのが疎空間の特徴です。

## 【求心力】

現状、疎空間から都市にかなりの勢いで人が流出しています。疎空間の場合、多くは森ですが、そのうちの4割前後を占める人工林は杉やヒノキの単純林で構成され、その周りの多くは言わばジャングル化していますので全く美しくなく、近づきたいとも思えません。動物がすむための餌もありません。まして杉は本来密集して生えない樹木ですから、自然の状態とかけ離れています。

日本では従来、人が住む周りの山は明治以前よりほぼはげ山で、里山が豊かだったという話はほぼでっち上げです。そして、治水のために杉を植えまくり、政策としては成功したのですが、結果として剥がれやすい山になってしまいました。

山に餌がないので熊の多くは里に下りてきます。疎空間は空き家だらけ、壊れたままです。

また、絶景だと思って眺めると、高圧線網が走ります。世界遺産の五箇山でも大型で硬いインフラ網の過剰を残念に感じますし、気仙沼の防潮堤もまた、土地ならではの景観を破壊していると言えます。こうしたものが求心力を失わせて流出を招く負のスパイラルを継続させます。

## ◆ テコとなるポイント

### 【全体観】

こうした状況に対処するため、まず「谷」をつくる課題領域を考える必要がありますが、人間と自然、基盤インフラ、生活空間、そして社会インフラの4つとも、再生には人が一生で働く時間を超える可能性が高くなります。ですから、面白い空間づくりと人づくりを同時に行いながら育てる正循環を起こす必要があります。

ブラジルの首都「ブラジリア」は、上空から見ると鳥が翼を広げたような形で美しいですが、人が生活する視点では、空虚な都市です。ヒューマン・スケールでの空間づくりは疎空間においても大事です。

また、基本的に都市型開発のスコープは街で、都市計画ドリブンですが、谷的な疎空間は歴史を持つ美しい空間で風土の存在感が大きく、森林や農地の計画、環境保全などが一体的です。都市型の密閉かつ高密度とは逆で、「谷」は開放かつ疎で対象面積が非常に広い。時間的にも、数年～20年の都市計画に対し、50年～100年かかる有機的プロセスです。そして「谷」は、単に人が集まるまちづくりではなく、疎でありながらエコノミクスが回り、災害やパンデミックにもレジリエント、そして土地に求心力を持ちながら価値を生み出し続ける必要があります。

ですから、谷づくりは都市型開発とは異質で、最初にグランドプランニングをするものではありません。また、そこに何か面白い人が出てきて新しいことを始めたら、それに誘発されて、また面白いことが起きるといった正しい有機的な

発展のために、ある種の仕込みである「空間フェロモン」が必要です。

ベースになるのは土地らしさです。例えば魯山人先生を九谷に引き寄せたのは、土地にある伝統と文化です。土地が持つ記憶が求心力の原点です。これに反したことを行うと、ハウステンボスのような事例を引き起こします。

変化の起動方法については、水が氷になるような「相転移」という物理現象で例えると、不純物の追加が一番の鍵になると考えます。これを「異人」と呼びますが、疎空間の未来に必要なのは、要は土地の記憶を大切にしつつもファーストペンギン的な人を引き寄せることです。

分かりやすい事例がニューヨークのハイラインです。廃線となり、20世紀の終わりまで放置されていた高架鉄道を、2人の青年の働きかけにより、美しい風景としてよみがえらせ、沿線の不動産価値を高める経済効果をもたらしました。つまり、少人数でも土地にコミットしつつ新しい目を持つ「異人」と、そうした異質が土地の特性を残しながら混ざる意味で、文化的な開疎性は重要になります。

また物理的な比喻になりますが、石けんのような界面活性剤があると水と油が混ざり乳濁液（エマルション）となるように、その土地外の文化もくっつけられる界面活性型の異人が鍵になります。そして、こうした人を生み出すためには、「谷」を脱して様々な分野の本場に送り出すことが大切です。それが10年後、20年後には生きてきて、送り出した10分の1が戻ってくるだけでも大変なインパクトをもたらし、その数々が未来を変えていきます。

例えば井波の活動体「ジソウラボ」には、国際的に活躍する建築家、共同する様々な分野のプロたちがいます。そのセンスを持ち込み、再生古民家の宿泊施設「Bed and Craft」を開業しましたが、彼らの多くは典型的な界面活性型の異人と言えます。

## KOUENROKU

## 【自然との調和】

森は防災や地表保護、水に関連する機能を有しますが、林業的な価値は森の価値全体のごく一部です。地球上の水循環からも分かるように、森と海はセットで流れをなしており、これを妨げる行為は非常にリスクが高いです。

地球上の生物量の分布を見ますと、実は海中は1%程度にすぎず、ほぼ全てが陸上（森）にいます。そして、海には生産者の5倍も消費者がいますが、それは森が海を養っているから成立するのです。森をしっかりと育てないと海は死んでしまいます。また、土は砂と死んだ動植物、更に菌類と微生物が混ざって構成されますので、火星や月のように水すらない場所には全く土がないわけです。この土を育てているのも森です。

そして、景観美と融和しない擁壁だらけの道など「硬いインフラ」があると、生物の数が減少し、地下水位も大きく影響を受けます。疎空間では、よほどの幹線道路以外は、交通量優先の「さばく道」（ハイインパクトロード）より、自然への負荷が少ない「寄り添う道」（ローインパクトロード）にすべきです。

すべての土地は何らかの分水嶺で囲まれた「流域」ですが、水と空気の流れに逆らうインフラづくりをすると、先述の能登のような事象が起きます。土地にうまく寄り添って疎空間のレジリエンスを上げ、後々の世代が莫大な修理費用を抱えないようにしなければなりません。トスカーナやロンドン郊外もいい例ですが、ある種の土地の骨格である「微地形」（地形図上で表現しにくい微細な起伏を持つ地形）にもインフラを沿わせることが重要です。

## 【エコノミクスとインフラ】

人口密度と空間エコノミクスとの関係を見ますと、人口密度の低い場所に都市型のインフラを持ってくると、1人当たりのコストは高くなります。設計を変えないとコストは下がりにません。一方、一人当たりの創出価値は、面白い人



が来れば来るほど上がります。

道路費用は、1km当たり、アクアラインで約930億円、中央環状線で約680億円、高規格道路は約100～150億円、国道も約50～100億円と大変な金額です。道路を傷めているのは、ほぼトラックです。与えるダメージは輪荷重の4乗に比例します。トラックが走らないのであれば、道路のスペックは劇的に落とすことが可能です。そして道路には、集落と集落を「つなぐ道」と、集落の中の数軒が「つながる道」があります。その場合分けをすれば、スペックダウンは可能になります。つながる道は轍さえ沈まなければいいので、路上にグラベルグリッドや古い瓦などを使えば十分です。こうした「ほぐす土木」を行うことによって、ほぐしおわった後には土木費用は必ず下がります。

生活用水を例にとると、網目状に広がるグリッドは都市部では効率がいいのですが、疎空間では正反対となります。東京の場合、水道管1m当たり約150万円かかりますが、1㎡の水のコストはたった120円、下水を入れても二百数十円です。つまり、人口密度が非常に高いので一人あたりの管の長さが短くなり、ハイスペックな設備でも水は安くできるわけです。

ところが、一人当たりのインフラ費用がかなり大きな疎空間では全く採算が合わなくなります。逆に都市ではより高コストのオフグリッド化のほうが、維持コストが下がる特殊な事象も起きます。ただ、まばらなオフグリッド化はコ

ストが下がらず、むしろ厄介なので、集落単位の枝切りのような方式でしかエコノミクスは合いません。

一方、いくつかの社会インフラ、例えば病院は建設費や年間維持費に多額の費用がかかりますので、疎空間には置けません。ですから、都市部との連携が必要で、特にサポートが必要な方には中核医療機関近くに優先的に滞在できる場所、また空き地でいいので一定密度でヘリコプターが離着陸できる場所を用意しておく必要があります。

### 【3絶】

「風の谷」を成立させる求心力は3つの要素、「絶生」「絶景」「絶快」の「3絶」で構成されます。

現在の多くの疎空間は、訪れたり滞在したりするには安全な場所とは言えませんし、泊まる場所もほとんどなく、多くの都市から谷づくりのために戻ってきたり、やって来る人たちが安心して住むことは愚か、ステイすることすら困難です。学校は回っておらず、先程述べたヘルスケア的にはかなりのリスクが伴う。ですから、生活基盤である「絶生」のポイントは、面白い人が突然訪れても入れる居場所をつくり、生活してみたいと思わせることです。

具体的には、学校は寄せて混ぜ、一定数の人が集まった形を体験させて育てます。一番困るのは知的刺激が足りなくなることで、ライブラリーを充実させます。また、3Dプリン

ターなどを備え、ものづくりができるファブ的な空間も欲しいところです。そして、食です。おいしい物がないと人は集まりませんので、疎空間にこそ出店してほしいところです。また、経済的に持続可能な食材生産も重要です。人手がかかり過ぎ、多くの農地はスケールのエコノミクスと合っていません。自然資源量もそうで、日本は経済水域面積が世界4位ですが、漁獲量は減少しています。求心力になる食べ物を失うことがないように、その管理に注力すべきです。

輪島へ行きますと、倒壊した家屋の多くは指定危険地域にありました。100年以上前は水道がないので、恐らく湧水をくむ理由で、崖下に多くの人に住んできたのでしょう。しかし、今はポンプがあるので、そこから離れて暮らすことは可能です。防災科研の研究では、崖から50メートル以上離れると、ほぼ被害を受けません。ですから、立地の見直しがレジリエンス強化の基本であり、家の移設には補助を出すべきです。No Blackout、要は電気や通信が落ちない空間も、1km内に1か所でもいいので確保したいところです。

「絶景」は都市では得ようがない圧倒的な景観価値で、これがないと、わざわざ都市から来る理由がありません。間違っても、巨大モールなどのように大事な景観価値を破壊するものが建たないように、絶景を死守していただきたいのです。

昨今、熊の出没が相次いでいますが、野生動物にとって幸せな場所は人がいないところです。一方、人には歩き回ったり林業を営んだりする森が要ります。そこで、森は、本来の手つかずに近い「深い森」、林業を行える「活用の森」、その間にはバッファゾーンとなる「再生の森」、そして人が日常的に散策できる「交流の森」という4層構造につくり直すことが鍵になります。また、できれば交流の森と田園地帯の間に、さ



## KOUENROKU

らなるバッファゾーンとしてカヤ場をつくれば、1km当たり、毎年六、七百万円分のカヤが取れます。

「絶快」は、その土地ならではの出会いと気づきですが、成功する街にはいろんな隙間があって出会いがあります。そして、疎な空間にも同様な、魅力ある「サンゴ礁的空間」が必要です。多様な能力を持つ面白い人たちが引き寄せられて出会うことで何かが生まれます。巣穴のようにいろんな入り口があり、誰もが居場所を見つけられるよう、密集した「つくね型」よりも広がりのある「ぶどう型」空間のほうが良いと言えます。

ボストンのMITの本館の謎の場所にある「バ

ナナルーム」は、バナナとコーヒーが食べ飲み放題で、物理や数学、機械工学などの専攻分野を超えて人が出会える空間です。これがMITの創造性を支えている一つの秘密であるとも聞きます。こうした交ざり合う場所をつくるのが疎空間には必要です。

まとめますと、レジリエントであること、そして土地ならではの求心力や隙間があり、いろいろな出会いがあると面白いものが生まれてエコノミクスは回ります。空間価値を上げることによって良循環に入るようにすることが疎空間には重要です。



## 日本海サミットに向け議論

### — 第2回代表幹事イニシアティブ委員会 —

1月28日(水)、第2回代表幹事イニシアティブ(日本海サミット)委員会(棚田一也委員長)を開催し、委員20名が参加した。冒頭、棚田委員長より「前回の議論を踏まえ、方向性が徐々に絞られてきた。本日も忌憚のない意見をいただきたい」と挨拶があった。続いて大橋担当役員より「経済団体としての立場から、意義あるアピール文を取りまとめてほしい」と、提言への期待が示された。

議事では、4つのテーマごとにグループ分けを行い、割り当てられたテーマについてグループディスカッションを実施した。災害対



棚田委員長



大橋担当役員

応や国土構造、広域連携の在り方などをテーマに活発な議論が展開され、その後、各グループよりディスカッション内容の発表が行われた。

委員からは、日本海側は単なる地方ではなく、国家機能を支え続ける「もう一つの軸」であるとの視点が強調された。今後は、7月に富山で開催予定の日本海沿岸地域経済同友会サミットにおいて、12経済同友会が結束して発信できる「アピール文」の策定に向け、内容のさらなる精査を進めていく予定。



# 委員会の進捗状況を確認

## — 第4回総務企画委員会・第2回委員長連絡会議 —

2月24日(火)、第4回総務企画委員会（山野昌道委員長）が、第2回の委員長連絡会議と合同で事務局会議室において開催された。

総務企画委員6名、8委員会の委員長ら8名のあわせて14名が参加した。

山野総務企画委員長の進行のもと、各委員長からこれまでの委員会活動の進捗状況や2年目に向けた活動内容・年間スケジュールについて順次説明がなされた。



山野委員長

今後の活動として、若年代や支店長クラスなど分野を分けたエンゲージメント調査、3つの委員会が連携した合同委員会等が紹介され、また、課題としては、企画に携わる正副委員長と参加者に温度差が生じること等が述べられた。

山野委員長、松田担当役員からは、「会員のエンゲージメント調査の結果ができれば他の委員会活動にも活かして欲しい」、「委員会での成果を他の委員会にも横展開を図ってほしい」、



「富山らしい戦略を成果としてまとめてもらいたい」等のコメントが述べられた。

委員長からの発表が一巡した後、総務企画委員から、「委員会を超えて連携する合同委員会の取組みが素晴らしい」との感想や、「参加意識を持ってもらえるよう、参加者に委員会ですべて発言を求めてきた」、「エンゲージメントは人により異なるので、重要なことではあるが、委員長の思った通りに突き進んで欲しい」等の自らの体験を踏まえた意見が述べられた。

続いて大連飯店に会場を移して、懇親会が盛大に開かれた。

### SDGs

8 働きがちな  
経済成長も



## 中小企業の人事戦略 静かな変化

### — 第2回人財育成・活躍委員会 —

第2回人財育成・活躍委員会（西能淳委員長）が1月29日(木)、ホテルグランテラス富山にて開催され、会員25名が参加した。今回は(株)天神経営代表取締役で中小企業診断士の角田紘一氏が「差がつき始めた、中小企業の人事戦略。静かな変化。一私たちが『大変だ』と言っている間に、あの会社が粛々と進めてい



西能委員長

る採用・育成・定着の新たな動き」と題して講演を行った。

冒頭、角田氏は多くの企業が「人が採れない」「人が辞める」といった課題を抱える中、近年は企業間で“差”が生まれ始めていると指摘し、その背景を「静かな変化」と説明した。



角田 紘一氏

中小企業診断士としての支援経験と医療機器メ

一カーでの実務経験を踏まえ、成果の差は情報量ではなく「判断基準」にあると強調。成果を出す企業は自社なりの基準を持ち、小さく試しながら前進している一方、成果が出ない企業は判断ができず施策を先送りしがちであると述べた。

また、採用がうまくいかない原因は求人媒体の問題ではなく、事業戦略と結びついた人材設計が曖昧なことにあると指摘した。まず「どの業務を、どのような人材に担ってもらうのか」「入社後にどのように育て、どの水準まで成長してほしいのか」「何をもって成果とするのか」を具体的に定めることが重要である。これらが明確になってはじめて、採用基準が定まり、その後の育成や評価にも一貫性が生まれると説明した。

最後に、人事戦略は経営そのものであり、採用・育成・定着を一体で捉え、自社の判断基準を明確にすることが重要であると締めくくった。終了後は角田氏を囲んで懇親会を開催し、活発な意見交換が行われた。



SDGs

8 働きがいも  
経済成長も



## 理念ドリブンによる組織改革の実践

### — 第3回企業経営委員会（同友会経営道場） —

企業経営委員会（山田恵子委員長）は2月5日(木)、第3回委員会（同友会経営道場）を開催し、会員47名が出席した。今回はサクラボックス(株)代表取締役の橋本淳氏を迎え、「理念ドリブン～旧態依然とした会社を継いだ3代目経営者の組織改革～」と題して発表いただいた。

橋本氏は、社長就任当時、先代が築いてきた経営スタイルの中で、人材育成や組織づくりの体系化が十分ではなく、経営方針の違いから現場に戸惑いが生じていたと振り返った。その状況を踏まえ、先代と相談のうえで世代交代を進め、自らの責任で組織改革に踏み出した経緯を紹介した。

転機は東日本大震災



山田委員長



橋本 淳氏

でのボランティア活動。「誰かの笑顔のために生きる」という使命を再確認し、新理念「ハートのリレーで笑顔を創り、世界の和をつなぐ」を策定。さらに、245ページに及ぶ理念集「サクライズムブック」を制作し、毎朝の会議で読み上げる等、理念を組織に定着させる具体的な取組みが紹介された。

理念浸透は事業にも波及し、「ダンボールを売る」から「顧客本位・利他」の課題解決型へ転換。高度なパッケージ開発や販路支援、ラジオを通じた顧客紹介などへ領域を広げた。熊本城復興や能登半島地震でのダンボールベッド無償提供など社会貢献への取組みも紹介された。

社内ではサンクスカードや表彰制度などを通じて誇りを醸成し、就任15年で売上は約2倍、収益も大きく向上。橋本氏は「あるべき姿にする」「指揮官先頭」の重要性を説明し、理念を掲げるだけでなく、自らが体現し続けることこそが組織を動かす原動力であると強調し講演を締めくくった。発表後の懇親会ではグループ討議も行われ、活発な意見交換がなされた。



# DX のリアルをシェア

## — 第3回デジタル推進委員会 —

2月25日(水)、オークスカナルパークホテル富山において、第3回デジタル推進委員会（西田美樹委員長）を開催。今回は、委員による「デジタルを活用した経営課題解決につながる自社の取組み等について」の事例紹介第2弾であり、委員ら33名（オンライン視聴含む）が出席した。

まず、西田委員長が、開会の挨拶の中で今回の企画趣旨を説明。前回の事例紹介を踏まえ、「自身の取組みも紹介したい」「他の委員の取組みも聞いてみたい」との声がまだまだあることに触れたうえで、デジタルツールを活用し「自社のDXの段階」を問うリアルタイム投票を実施し、「まだ取組みをスタートできていないという方も、この場でご紹介いただく身近な事例から知見を積み上げ、ぜひご自身の一歩につなげていただきたい」とした。



西田委員長



モデレーターの西田委員長・碓井副委員長

その後、西田委員長・碓井副委員長をモデレーターに、メインプログラムである委員による事例紹介を実施。今回は、塩口委員（合同会社 BizMalS 代表社員）、東出委員（㈱アイベック代表取締役）、森田委員（㈱グループフィリア代表取締役）の3名にご協力いただいた。

能力拡張ツールとしての“正しい”AI活用方法、IoTデータの利活用により展開するソリューション事例、アプリ・ツールの自社仕様開発による業務効率化といった各社での具体的な取組みの説明に



塩口委員



東出委員



森田委員

に加え、一步進んだAI実装段階の課題や定着に向けた戦略の解説、今後の更なる取組み高度化に向けたデータ利活用の在り方に関する示唆、中小企業におけるDX推進を後押しする一つの手法として“産学連携”事業の紹介など、多様な角度から知見が共有されると、委員からは活発な質疑・意見が挙がり、高い関心が示された。



# 第44回海外経済視察 コース選定

## — 第5回交流委員会 —

2月9日(月)、事務局会議室にて第5回交流委員会(島田好美委員長)を開催し、委員10名が出席した。委員会では第44回海外経済視察に向けて、旅行業者選定のためのプロポーザルを実施し、旅行業者3社からそれぞれ2コースの提案を受けた。

各提案について、富山の地域課題解決に参考となる地方都市が選定されているか、効率的で参加者の負担を考慮した行程・スケジュールとなっているか、観光戦略・経済情勢の各テーマに即した視察先が選定されているか等



伊東担当役員

の観点から審査し、各社からのプレゼンテーション後、活発な議論がなされた。

そして、観光大国であり、有名観光地の通過点とならないよう取り組む地方都市に学ぶ点が多いことから、交流委員会として、フランス1か国を巡るコースを選び、入念な下調べのうえ訪問都市を提案された旅行業者を選定することになった。



### SDGs

4 質の高い教育をみんなに



## — 課外授業講師派遣 —

### 第8回 富山市立速星中学校

2月5日(木)、島谷浩司氏(北日本放送㈱代表取締役社長)が富山市立速星中学校1学年276名に「人はなぜ働くのか」と題し課外授業を行った。

島谷社長ははじめに、会社員やプロ野球選手、YouTuberなどの職業等を挙げ「この人たちは働いていると思うか」と問いかけた。続けて、災害ボランティアや雪かき、詐欺師についても同様に問いかけ、生徒は手を挙げて答えた。

AIによると、働く目的は“①生活の糧(お金を稼ぐ)、②社会との繋がり(社会貢献のために)、③自己実現(やりがい、自分のために)”だという。災害ボランティアや雪かきは金銭を得ていないが「誰かのため」という点で働いている印象がある一方、詐欺は金銭を得たとして



も人のためにはなり得ず、働いているとは言えないと述べ、「社会との繋がり」が、働く

うえで大きな目的となる。皆さんいずれは働くことになるのでよく考えてほしい」と語った。また、「家事」は仕事と断言し、家族のために頑張っていることに理解を求めた。



島谷 浩司 氏

事前アンケートで「就きたい職業がある」と約半数の生徒が答えたことに触れ、13歳の時点で就きたいと思える職業があることは素晴らしいとしたうえで、「得意や好きを見つけるためにも、いろんな経験をしてほしい」と語りかけた。

最後に、紆余曲折の自身の人生を振り返り、「就職して経理の仕事をするとは思っていませんでしたが、どうしたら会社の利益や社員の給与を上げられるかを考え続けた結果今がある。これから先、思い通りにならないことはたくさんある。出会った仕事で自分や人のために頑張れば、必ずそこには幸せな人生がある」と講演を締めくくった。



## 自転車と私

藤谷 弦一郎

(株式会社 OSCAR ホールディングス 代表取締役社長)

私は OSCAR の創業者で父でもある藤谷和彦と交代で、2024年に富山経済同友会に入会しました。眞門先輩からリレーエッセイの執筆者に指名された時、かつて父が同友会の記事を社内報に寄稿していたことを思い出しました。参考にするべく社内報を見返してみると、そこには会報裏表紙の「わが青春の1枚」として、自転車にまたがる高校3年生の父と祖母のツーショットがありました。リレーエッセイの記事ではなかったものの、その写真を見て、父にも私にも不思議と自転車に縁があるのだと感じました。

父は大学時代にドロップハンドルの自転車に乗り、富山から京都まで旅をしたことがあったそうです。私はその自転車を譲り受け、中学生の時に乗っていました。オートバイに憧れていた私は、夏になると呉羽山の坂を汗だくで登り、全速力で駆け下りるという無茶をしていましたが、ある日、トラックと正面衝突しました。頭をぶつけてボンネットが凹むほどでしたが、脳のCTには異常はなく、服の破れと擦過傷だけで済みました。ただ、譲り受けた自転車は大破し、修理できませんでした。

その後は原付や車に乗るようになり、自転車からしばらく遠ざかりましたが、青年会議所の現役時代にマウンテンバイクを購入し、自転車を再開しました。エコや健康が建前でしたが、自転車で繁華街まで行って、そのまま帰るといった行動自体が軽率で、法的な意識も安全への想像力も欠いていました。案の定、花見の帰りに城址公園で松の根に突っ込み前転したり、用水に落ちたりと、怪我也重ねました。

その意識が変わったのは2年前、次男に「意識が正常じゃない時に自転車に乗るのは危ないよ」と言われたことです。何も言い返せませんでした。それ以来、運転に不安を感じる時は、車は当然、自転車にも乗らないと決めました。だから、自分がゴルフ場でお酒を飲んでいる時は帰りの運転をしてもらえる日です。(笑)

さて話を戻すと、2012年以降、網膜剥離、白内障、脳腫瘍と大病が続き、手術後に「このままではまずい」と身体と向き合うようになりました。その転機となったのが、2014年にパパ友に勧められて購入したロードバイクでした。最初は近場を走るだけのつもりが楽しくなり、2015年からは湾岸サイクリングやグランフォンド富山に挑戦しました。さらにリレーマラソン、富山マラソン、勢いでトライアスロンにもエントリーしました。

これらのイベントでは年齢も立場も違う人と並んで走り、励まし合い、完走後に交わす一言で元気をもらいました。自転車がくれた縁で運動習慣が身につき、体重も標準へ。「この年齢でも挑戦できる」という自信を取り戻せました。

振り返ると、無鉄砲で怪我ばかりしていた頃も、病気を経て「人生を楽しむには健康が大切」と気づいた今も、「ペダルを踏めば前に進む」という単純な機械である自転車が私の傍にありました。自転車は、私にとって健康と挑戦の伴走者です。無理のないペースで、これからも人生のペダルを回し続けていきたいと思います。

( 次号は(株)村尾地研 代表取締役社長の  
村尾 英彦 様です。 )

# 会員の入退会

(1月幹事会)

1. 最近思うこと  
(社業についての抱負や最近の政治・経済・社会情勢等についての考えなど)
2. 生活信条(座右の銘等)
3. 趣味

## 入会



しみず せい た  
清水 晴 太

(株)新栄電設  
代表取締役社長  
(紹介者：麦野英順氏)

1. 社業においては、お客様の役に立つ仕事を通して、任せたら安心と思っただけの信頼を大事に、社員の育成と明るい未来の創造に努めていきたいと考えております。
2. 為せば成るを信じ、日々の行動を積み重ねてまいります。
3. ゴルフ



すな はら まなぶ  
砂原 学

(株)富山第一銀行  
執行役員 法人事業部副部長 兼  
リテール部副部長  
(紹介者：野村充氏)

1. 地域にとって不可欠な金融機関であると認識されるよう努めたいと思っています。
2. できない理由ではなく、打つ手を考えよ
3. ゴルフ



なか むら しょういちろう  
中村 正一郎

医療法人財団正友会  
中村記念病院 事業本部長  
(紹介者：石倉央氏  
西能淳氏  
横田龍大氏)

1. 少子高齢化に伴い、元気な社会を支えていく上で、歳を重ねても心と身体が健康である事が大事だと感じています。安心安全な食と沢山笑う事をモットーに健康の発信に努めます。
2. 一日一生  
笑う門には福来る  
来るもの拒まず去るもの追わず  
天網恢恢疎にして漏らさず
3. ゴルフ、バイク、車、スキー、スノーボード



なり やま よし ふみ  
成山 佳史

NTT ドコモビジネス  
ソリューションズ(株)  
北陸支社 富山支店長  
(紹介者：雄谷秀次氏)

1. 地域創生が日本復活の鍵を握っている。
2. 急ぐなら一人で行け。遠くに行くならみんなで行け
3. ランニング、ゴルフ、水泳、釣り、昆虫採集



ふじ けん じ  
藤 健 二  
(株)富山第一銀行  
執行役員 総合企画部長  
(紹介者：野村充氏)

1. 社会が大きく変化する中であって、自己の職責を果たしながら、一県民として地域社会との協働や貢献にも力を入れて取り組んでいきたいと考えております。
2. 一期一会 ご縁や出会いを大切にしたいと思っております。
3. ゴルフの練習



ふな はし おさむ  
船 橋 修  
大平洋ランダム(株)  
常務取締役  
(紹介者：酒井智俊氏)

1. DX・GXへの対応、人的資本の強化や多様性推進など課題は多いが、変革を成長の機会と捉え持続的成長と企業価値向上を目指したい。
2. 現状に満足せず、人の意見に学びながら挑戦を続ける
3. ゴルフ、食事、スポーツ観戦



よし たか し  
吉 田 隆 志  
医療法人明心会 柴田病院  
常務理事 事務長  
(紹介者：石倉央氏  
西能淳氏  
横田龍大氏)

1. 高市政権によるダイナミックな外交・内政に期待しています。ここ数年のインフレは医療業界を直撃しておりましたが、新政権の政策により、ようやく少し光が見えました。
2. やらずの後悔よりやっつけの分析
3. 金融、経済、政治、自己啓発、旅行、スキー

## 交代



いけ だ とも ゆき  
池 田 智 幸  
(株)日本旅行 TiS 富山支店  
課長  
(前：林良孝氏)

1. 旅行だけではない価値を提供し、お客様と「こころに響く瞬間」を創りたいと考えております。
2. 困知勉行 (こんちべんこう)
3. 野球観戦、競馬、麻雀



えち ご まさ とし  
越 後 雅 俊  
弁護士法人山本・越後  
法律事務所  
代表社員  
(前：山本毅氏)

1. 裁判もIT化が急速に進んでおり、弁護士業界にもAI活用の波が来ています。この波に乗り遅れないようにしつつ、AIでは代替できない「心」を大切にしたいと思います。
2. 真ん中も右から見たら左 (常に様々な視点で物事をみるようにしたいと思います)
3. ゴルフ、旅行、野球



かな おか ひろ ゆき  
 金 岡 浩 之  
 金岡忠商事(株)  
 代表取締役会長  
 (前：金岡寛氏)

## 退 会

岡 田 健 一 (有)カーショップ岡田  
 代表取締役

(令和8年1月14日現在 会員数444名)

1. 自社のみならず、お取引先様はじめ地域の経済の発展に寄与することを念頭に社業に当たってまいります。
2. 上善若水  
運鈍根
3. ゴルフ

## 活 動 報 告

1月1日～2月28日

### ○定例会等

開催日時・場所	内 容	出席者
1月14日(水) 11:30～13:00 富山電気ビルディング	新年幹事会・富山県知事との昼食会	75名
1月26日(月) 17:00～20:10 富山電気ビルディング	1月会員定例会 講師：富山県政エグゼクティブアドバイザー 立教大学経営学部 客員教授 (株)an 代表取締役 永谷 亜矢子 氏 演題：「世界からすでに見つけられた富山！観光産業で地域が 稼ぎ、イノベーションするために『いま』必要なこと」	約120名

### ○委員会

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
1月20日(火) 11:00～13:00 事務局会議室	企業経営委員会 第3回正副委員長会議	・第3回委員会について ・県外視察について ・今後の活動スケジュールについて	9名
1月27日(火) 18:30～20:30 富山市内	地域創生委員会 第8回正副委員長会議	・委員会活動方針について ・2月正副委員長会議について ・3月委員会について ・次年度視察について	10名
1月28日(水) 10:30～13:00 インテックビル	第2回代表幹事 イニシアティブ委員会	・第1回委員会の概要 ・専門家の意見聴取 ・アピール文構成と分担について	20名
1月29日(木) 17:00～20:10 ホテルグランテラス 富山	第2回 人財育成・活躍委員会	講師：(株)天神経営 代表取締役 中小企業診断士 角田 絃一 氏 演題：「差がつき始めた、中小企業の 人事戦略。静かな変化。一私た ちが「大変だ」と言い合ってい る間に、あの会社が粛々と進め ている採用・育成・定着の新た な動き一」	25名

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
2月4日(水) 11:00~12:30 事務局会議室	観光戦略委員会 第4回正副委員長会議	・次年度活動計画について ・第3回委員会について ・県外視察について	7名
2月5日(木) 17:00~20:10 オークスカナルパーク ホテル富山	第3回企業経営委員会 (同友会経営道場)	・発表者: サクラパックス(株) 代表取締役 橋本 淳 氏 ・テーマ: 「理念ドリブン ~旧態依然 とした会社を継いだ3代目 経営者の組織改革~」	47名
2月6日(金) 11:00~12:30 事務局会議室	教育を考える委員会 第4回正副委員長会議	・次年度活動計画 ・教員との交流事業 ・アンケート実施内容 について	7名
2月9日(月) 13:30~16:15 事務局会議室	第5回交流委員会	・第44回海外経済視察 旅行者選定プロポーザル	10名
2月24日(火) 16:30~20:00 事務局会議室	第4回総務企画委員 会・第2回委員長連絡 会議(合同会議)	・委員会の活動状況 ・委員会活動の課題について	14名
2月25日(水) 17:00~20:00 オークスカナルパーク ホテル富山	第3回 デジタル推進委員会	・委員による事例紹介: デジタルを活 用した経営課題解決につながる自社 の取組みについて	33名 (オンラ イン視聴 含む)
2月27日(金) ~28日(土) 福井県坂井市	地域創生委員会 第9回正副委員長会議	・Actibase ふくい業務概要説明 ・マチノクラ見学 ・アクティビティ体験 ・会議: ヒアリング事業について 7月視察について ほか	11名

### ○課外授業講師派遣

開催日時	派遣先	対 象	出席者
2月5日(木)	富山市立速星中学校	1学年 276名	島谷 浩司 氏

### ○その他の会合

開催日	内 容	場 所	出席者
1月5日(月)	5 経済団体合同「新春互礼会」	ANAクラウン プラザホテル富山	38名
1月10日(土)	(公社) 富山青年会議所 2026年度新年祝賀会	ホテル グランテラス富山	牧田代表幹事
2月2日(月)	第2回とやまスタートアップ戦略会議	オンライン	麦野代表幹事
2月3日(火)	令和7年度 富山県プロフェッショナル 人材戦略協議会	富山電気 ビルディング	上田事務局長
2月9日(月)	富山DAY	駐日インド大使館	麦野代表幹事
2月16日(月)	第2回富山市総合計画審議会	Toyama Sakura ビル	麦野代表幹事
2月19日(木)	高岡商工会議所 創立130周年記念式典・ 祝賀会	高岡商工ビル	麦野代表幹事
2月20日(金)	第3回県庁周辺県有地等の有効活用に関する 検討会	富山県庁	牧田代表幹事

## 今後の予定

開催日	対 象	行 事	場 所
4月8日(水)	幹事以上	4月幹事会	富山電気ビルディング
4月16日(木) ～17日(金)	全会員	第38回全国経済同友会セミナー (土佐経済同友会)	高知県高知市
4月23日(木)	全会員	2026年度定時総会・懇親会	ANAクラウンプラザ ホテル富山
6月19日(金)	正副代表幹事 常任幹事 特別幹事 交流委員会	第7回全国立山大使の会 (県外在住の当会会員OB・OG会)	はま作(日本橋とやま館)
6月28日(日)	あけぼの会会員	第90回あけぼの会	呉羽カントリークラブ
7月8日(水)	12経済同友会	第2回日本海沿岸地域経済同友会サミット	ANAクラウンプラザ ホテル富山
7月27日(月)	幹事以上	7月幹事会	ホテルグランテラス 富山
7月27日(月)	全会員	7月会員定例会 講師：共愛学園前橋国際大学 学長 大森 昭生 氏	ホテルグランテラス 富山
8月24日(月)	令和7年10月以降 入会新会員、 正副代表幹事、 常任幹事、 各委員会委員長、 交流委員会	新会員歓迎オリエンテーション	オークスカナルパーク ホテル富山
9月12日(土)	あけぼの会会員	第91回あけぼの会	呉羽カントリークラブ
10月14日(水) ～21日(水)	全会員	第44回海外経済視察	フランス

### 哀 悼



当会の会員 片山浩一氏(片山商事(株)代表取締役)は、  
令和8年1月20日ご逝去されました。享年70歳。  
心からご冥福をお祈り申し上げます。

〔表紙写真〕

### 第3回企業経営委員会(同友会経営道場)

2月5日(木)、オークスカナルパークホテル富山にて第3回企業経営委員会(同友会経営道場)を開催。橋本淳氏の発表に会員は熱心に耳を傾け、その後の質疑応答も活発に行われました。

発 行 所

### 富山経済同友会

富山市牛島新町5番5号 インテックビル4階

電 話 (076) 444-0660

F A X (076) 444-0661

e-mail: doyukai@po.hitwave.or.jp

https://www.doyukai.org/



伏見アリーナ 立命戦に勝利、二部優勝



中央が著者



## 青春は、氷上にあり

井上機材株式会社 代表取締役

井上 敏夫

辛かった受験生時代が漸く終わり、大学で勉強する気などまるで無く、雅な京都で遊んで遊んで遊びまくるつもりでした。そのため下宿も、大学からほどよく遠い一乗寺に決定。今ではラーメン激戦区ですが、当時は天下一品と怪しげな映画館があるだけの、実に渋い町でした。入学式前、テレビもなく友人もおらず、夜は驚くほど暇でした。そんな時、生協で手にしたビラが私の大学生活を狂わせることになります。京都六大学アイスホッケーリーグ、試合は夜9時、会場は下宿近く、しかも入場無料。暇な私にピッタリです。早速その晩、同志社との試合を観に行き、2時間ほどの試合の後、入部していました。一時の興奮が招いた誤りでした。そこから生活は一変します。週に5日リンクに通い、1日は陸トレです。京大はほぼスケート未経験者でしたが、他大学は経験者の北海道出身者、カナダ帰り、通信学部生までいました。午後4時に大学に集まり、リンクのある伏見にバイクで移動、6時から8時まで一般営業中にスケートティング後、一旦陸に上がり、夕食とミーティング、そして11時から翌日1時まで防具を付け

ての本練習。これが終わってミーティング後、伏見から大学付近に戻って、午前2時半ごろ夜食の中華。下宿に帰って寝るのは、4時くらい。起床は「笑っていいとも」終了後。280円ののり弁を3つ食べていると、もう夕方です。こんな毎日で、素人の私でも歩くよりスケートが上手くなりました。同期44人で始まった部活も、卒業時には5人。関西学生リーグは各部が5チームの4部制で、京大は2部でした。私は、このアホな生活を続け、3回生時に関学、立命、阪大、京産大に全勝し、1部に上がりました。4回生時も1部でプレー出来、日光でのインカレに出場しました。また3回生時には、関西学生選抜のレギュラーに選ばれ、関東学生選抜との試合に出場しました。遊びまくるはずの大学生活は、氷の上での汗くさい毎日で終わりました。こんなはずでは無かったと何度も思った4年間ですが、私の一番自慢出来る青春です。もっと遊んでいた学生生活も悪くなかったかもしれません。ただーあの春があったから、今の私があるのだと思います。